

牧場見学の9箇条

牧場見学は牧場のご好意によって実現しています。
 牧場見学の最低限のルール＝『牧場見学の9箇条』を遵守してください。

1. 見学の可否は競走馬のふるさと案内所にお問い合わせください



競走馬を扱う牧場は、観光目的で牧場を経営しているわけではありません。ですから、見学できる牧場と見学ができない牧場があるのは当然のことです。牧場見学をご希望の方は、必ず事前に見学の可否を競走馬のふるさと案内所までお問い合わせください。なお、牧場に直接連絡することは、仕事の妨げになってしまうことが多いので避けましょう。

6. 危険ですから絶対に馬にさわらないでください



馬は何かに驚かされると、怒って突然攻撃的になることがあります。不用意に近づくと手や肩などに噛みつかれることもあるので、馬が柵の近くに寄ってきたからといって、決して近づいたり触らないようにしましょう。また、柵の中に入ると、噛みつかれるだけでなく、蹴られる危険性もあるので非常に危険です。見学の際には、柵から離れて見学してください。

2. 見学時間は競走馬のふるさと案内所までお問い合わせください



競走馬を扱う牧場といっても、種馬場、生産牧場、育成牧場など、さまざまな種類があって、それぞれ見学可能な期間や時間が異なります。また、事前に連絡を入れておかないと見学できない牧場もありますので、ホームページで確認したうえで、競走馬のふるさと案内所までお問い合わせいただくのが確実です。

7. 牧場内は禁煙です



牧場には干し草など燃えやすいものがたくさんありますので、火気は厳禁。タバコの吸殻は火事の原因になりますので、牧場の敷地内では絶対にタバコを吸ってはいけません。また、風で飛びやすいビニール袋や紙くずは、人間の想像以上に馬を驚かせるため、重大な事故につながる可能性があります。持ってきたゴミは必ず持ち帰るようにしましょう。

3. 牧場では牧場関係者の指示に従ってください



牧場によって立入禁止の区域、見学可能な馬、見学ルートなど、見学条件が異なります。牧場に到着したら、まず最初に牧場の方に声を掛けて、関係者の指示に従って見学するようにしましょう。見学が終わったら「見学が終わりました。ありがとうございました」と挨拶することを忘れずに、他人の敷地に入って見学させていたただいた、という気持ちを伝えましょう。

8. カメラのフラッシュはご遠慮ください



名馬を見学した思い出を写真に残したくなるのは当然のことです。ただし、馬は瞬間的な光などに非常に敏感。見学者が牧場内を撮影しようとして、フラッシュをたくと、驚いて走り出したり暴れたりして、その馬だけでなく、周りの馬や、動いている人などにも危険が及びます。撮影の際にはフラッシュが作動しないよう、撮影モードを変更しておいてください。

4. 厩舎や放牧地に無断で立ち入らないでください



牧場はあくまで私有地です。周りに人が見あたらなからといって、勝手に厩舎や放牧地に立ち入る行為は不法侵入となり違法です。たとえ「その馬のファンだ」と主張したとしても許されるものではありません。牧場内には関係者の許可なしでは絶対に立ち入らないようにしてください。

9. 絶対に食べ物を与えないでください



牧場では馬が伝染病などに感染しないよう、靴の裏を消毒する消毒槽などを設けたりして、外部から持ち込まれる病原菌に対して予防しています。牧場がこうして衛生面や健康面などを厳しく管理しながら馬を育成しているのにもかかわらず、見学者が馬に近づいて食べ物あげてしまうと、こうした牧場の苦勞が台無しになってしまいます。

5. 大きな音や声を出さないでください



馬は非常に敏感で臆病な生き物です。大きな声や犬の吠える声、オートバイの爆音や、クラクションなどは絶対に止めましょう。牧場に近づいたら車やバイクのスピードを落とし、騒音を少しでも抑えるように気を付けてください。女性や子供のかん高い歓声なども、馬をパニックに陥れる原因となりえます。牧場周辺では十分に注意してください。

Illustrator CHANNEL2.3

